

第5回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成 19 年 11 月 19 日 午後 6 時 30 分
場 所 中央図書館 4 階会議室
出席委員 毛利和弘委員 黒子恒夫委員 木下章子委員 鈴木喜和子委員
日高正登委員 川西西部図書館長 一ノ関中央図書館サービス担当係長
事務局出席職員 河中館長 村田吉祥寺図書館長 山中管理係長
春日中央図書館図書担当係長 丸本中央図書館レファレンス担当係長
前田主事 小澤主事 船崎専門委員

議題及び内容

主な議題内容

(1) 議題

武蔵野市立図書館の選書について

- ・ IT サービスについて

その他

なお、主な意見等は以下のとおり

・ 現在公共図書館において、情報拠点として紙媒体、電子媒体の融合されたハイブリット図書館が求められ始めている。千代田区立図書館においては、ネット配信が可能となり、同時に複数の人へのネットを介した貸し出しが可能となった。

(事務局より現在武蔵野市が行っている IT を使ったサービスについての説明) 中央図書館新館が開館した当初は、CD-ROM 検索パソコンによる情報提供サービスであった。その後ホームページによる蔵書情報提供サービス、そしてインターネットでの予約、現在はオンラインデータベースが利用できるようになった。ホームページによる情報提供サービスとしては、今年度「武蔵野市に関するレファレンス事例集」を公開予定である。今後は、新聞武蔵野版データベースの作成、定点撮影写真のデジタル化を進め、将来的にはホームページ上で公開していくことも検討していきたい。

・ 武蔵野市立図書館は何を目指し、武蔵野プレイスでは、どのような IT サービスを行っていくのか。

(事務局) 具体的な方向性を検討中である。IT サービスもこのままとは考えていないが、既存の建物には制限がある。

・ 各館にパソコンの端子があるくらいでも良いのではないだろうか。その際電力の問題が生じるため、自館発電も視野にいれるべきではないだろうか。

・ また IT という面だけでなく、身近に相談できる情報拠点としての図書館も必要である。ハードもソフトも融合する方向にして欲しい。その際情報をナビゲートしてくれる司書や職員を育てる必要性が生じる。またボランティアの方々をアドバイザーとして迎えること

もできるのではないだろうか。

・専門性を育てる必要があるのでは。指定管理者制度という考えもあるが、どこまで民間にお願いし、どこまでを行政が行うべきなのかが明確ではない。分担を考えていかねばならないのではないだろうか。

（事務局）武蔵野プレイスは20年度以降にサービス面の検討に入るので、提言等をいただけるとありがたい。

・武蔵野プレイスでは、ブラウジングとデータベースを用いたキーワード検索等とのバランスをどのようにとっていくのか考える必要がある。

・（館内の利用者開放用インターネットパソコンで提供しているオンラインデータベースと同じものを見学）

次回 平成19年2月25日（月）午後6時30分から